

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600019
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム 慶雲
所在地	喜多郡内子町大瀬中央5652番3 (電話)0893-47-0077
自己評価作成日	平成21年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・素晴らしい自然の中で顔見知りの方々と楽しく生活が送れる。
 ・東棟の理念の『笑顔であいさつ、笑顔で仲良く、笑顔で助け合い』をモットーに日々努力し入居者が満足できるような支援をおこなっている。
 ・建物では、見晴らしの良いテラスが自慢で入居者の皆さんにも気持ちよく散歩が出来るかと好評です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立当初から地域と共に歩む姿勢を大切にしており、地域からの好意的・積極的な働きかけもある。開設から3年目を経過した現在、さまざまな形で地域に溶け込んでおり、運営推進会議等を通して地域とホームが相互に連携できることについて共に考えながら、安心できる暮らしの実現と街づくりへの貢献という両面の充実を図る努力をしている。職員の向上心や意欲は高く、時間的にも人員的にも限られた中で、日々の支援に加え、通院介助、外出支援、地域との交流など利用者及び家族の希望やニーズに応える努力をしながら、勉強会やカンファレンスを通してサービスの質向上と業務改善に励んでいる。また、職員同士が聞く姿勢や言い易い雰囲気大切にしており、利用者の尊厳保持と自立支援に向けた連携や意識統一を図る努力を続けている。今後、より一層の地域交流を通して地域の拠点となっていくことが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム慶雲
(ユニット名)	東棟
記入者(管理者)	
氏名	松田 幸博
評価完了日	21年 9月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 会社の理念とは別に各ユニットで理念を掲げ誰でも見れる所に掲示している。また、入居者と一緒に理念を確認し日々送っている。</p> <p>(外部評価) 各ユニットで「ホームにとっての地域」について共に考え、法人理念を基本にしながら、わかり易い文言で表現し、共有に努めている。開設以来、ホームの存在自体を「街づくり」の一環と受けとめ、地域と共に歩み、職員だけでなく利用者也理念を共有して日々の暮らしの中で体感できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事には積極的に参加し、交流を図っている。地域の方も行事での席の確保や門松作り等の援助を受けている。今後、近所に数件家が出来たので協力していけるよう働きかけていきたい。</p> <p>(外部評価) 保育園との交流、運動会その他季節行事への参加以外にも、地域の方から門松の提供があったり、自衛消防団との連携を図る等、利用者と職員が共に地域との交流を保てるよう心がけている。また、ホーム近隣に住む職員もおり、防災面等でその利点を活かせるように努めている。</p>	眺望の素晴らしい屋外テラスが設置されており、さまざまな行事等で今後有効活用していく意向があるとのことなので、地域の拠点として位置づけ、利用者及び家族や職員、更には地域の方同士が直接ふれ合い憩える場として活用することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議で勉強会を行ったり、内子町内のグループホームが開いている連絡協議会において地域住民参加の研修会を毎年開催している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 自治会長・区長・民生委員・役場の職員等へグループホームの行事報告や取り組みについて話し合い意見交換を行っている。また、特定のスタッフの参加ではなく交替で会議に出席することにより会議の大切さ理解を深めている。	
			(外部評価) 会議には利用者の参加も可能で、家族や職員の参加も促している。現況報告や外部評価公表に加え、感染症、認知症、町の現状等、地域と密接に関係するテーマでの勉強会も行い、広く意見を聴取するように努めている。会議で出された課題への対応を、家族や地域関係者と共に考え、運営に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 月1回のグループホーム連絡協議会、運営推進会議や電話等により意見交換を行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議への行政の参加を促し、地域に関係のあるテーマについての勉強会を通して、地域密着のあり方から、利用のあり方やサービス提供内容等の細かな点についても率直な意見交換を行い、必要に応じて助言を受けて利用者への支援の質を高めるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしないケアを心がけているが、生命の危機等によりどうしても拘束が必要な場合は家族の同意を得た上で行っている。また、毎月ケアカンファレンスにて検討を行っている。	
			(外部評価) 防犯のため夜間は玄関を施錠しているが、日中は施錠することはほとんどない。職員のさりげない見守りのもと、仲良しの方同士で散歩したり、洗濯物干しや取り入れ等を自身の日課としている方が屋外テラスに自由に入出りできるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入居者の傷・あざ等がある場合は確認をしてどうして出来たのか原因を追究している。スタッフが感情的になったとき、対応が困難な場合は他のスタッフが仲裁に入るよう取り組んでいる。今後勉強会、研修に参加し重要性を学んでいきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現に当グループホームでも権利擁護を利用されている方がおられるので、勉強会を開き理解を深めている。担当者と意見交換を行ったり今後についても随時話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、契約更新時、解約時の説明に関しては十分な説明が行えるようゆとりある接し方をし、遠方の方に関しては書類と口頭での説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に苦情の取り扱い、苦情の窓口については説明を行い、気軽に意見を言っただけよう事業所の玄関先に意見箱を設置している。3ヶ月に一度家族へ手紙を送り意見を引き出されるよう取り組んでいる。 (外部評価) 運営推進会議を居間で開催し、随時利用者の参加も可能で、家族や職員の参加も促している。年一回は家族会を開催し、遠方の家族へも手紙等で連絡するなど、極力広く意見が聞けるよう努めている。出された意見への対応は、職員間だけでなく運営推進会議の参加者にも意見を聞きながら運営に活かすように努めている。	家族の参加を促してきたことが実を結び、家族自身が積極的にホームの運営に関心を持ち、家族会の開催に至っている。将来的には、家族自身による自主的運営が実現し、利用者及び家族とホーム、家族同士がより一層深い絆で結ばれたホームとなっていくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフの意見の発言の機会をケアカンファレンス、業務カンファレンス等に取り入れている。最近では直接管理者に意見・提案をするスタッフも増えてきている。 (外部評価) 管理者及びホーム長は傾聴姿勢を大切にし、何時でも意見が言える雰囲気づくりに努めている。月1回開催する業務カンファレンス等で出された意見は、食卓の高さへの配慮等、直に検討し運営に反映させている。また決定事項の伝達も、記録や掲示で伝え合う意識を職員全員で持つよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は多忙な為困難な状況である。部長が定期的に事業所に訪問し管理者、職員に意見を聞いている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 当事業所にて3ヶ月に1回勉強会を開催している。議題についてはスタッフに事前に問い、現在一番困っている事について行っている。また、内子町連絡協議会にて介護の質の向上に向けて研修会を開催している。代表者主催の研修会も年に1~2回開催している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ホーム長会議を開催し、他事業所との意見交換を行っている。また、行事にて交流も図っている。内子町内でもグループホームの管理者が集まり意見交換や行事を開催したりと活発的に取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に事前調査を実施し、家族・本人より意見を聞いている。また、入居後もユニットのスタッフ全員が情報を共有できるようケアカンファレンスにて報告、対策を練っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で家族の困っていること要望等を聴き、また 担当のケアマネージャーにも意見を聴いている。入居 時のケアプラン作成時に再度要望等を聴き関係作り に努めている。入居後も生活状況等を報告し家族と意見 交換を行っている。6月に家族会開催した。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 事前調査を行い本人の状況を確認し、当施設にての支 援が困難な場合は担当のケアマネージャーに報告しそ の後のサービスの継続について検討をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 入居者から生活の知恵を教えていただいたり、料理の 作り方等色々教わりながらお互い支えあい生活を送っ ている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月行事を行うときは、行事担当者が企画書を立て家 族へ呼びかけを行っている。誕生会に家族さんが参加 され充実した行事を実施できたこともある。普段見れ ない表情が見れてよかった。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 認知症の進行等もあるので環境を極力変化しないよう 配慮しているが、どうしても行うときは全スタッフに て対応している。西棟との交流も多く作り馴染みの人 が多く出来るよう取り組んでいる。 (外部評価) 利用者の生活歴に全職員が関心を持ち、本人及び家族 の了承を得て自宅を訪問する等により、馴染みの環境 を日々の生活の中で実感できるよう努めている。入居 後も馴染みの関係の構築・維持を図り、居室変更等の 際は極力配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 本人の小さな変化に気を付け注意を払い、部屋での閉じこもりや孤立をしないような声掛け・支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 体調の悪化により当施設でのサービスの利用が困難になった場合でも1日でも早く戻れるよう家族、主治医、医療連携の看護師と話し合っている。以前にも一旦退去され当グループホームを再利用されている方もおられる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や意向を聞けるように取り組んでいるが、困難な場合は家族、カンファレンス等で本人の希望・意向に沿えるように努力している。 (外部評価) 何気ない日常会話や行動観察、家族との情報交換に加え、毎月のケア及び業務カンファレンス等さまざまな機会を通して意向の把握に努めている。また、洗濯や台拭き等個人的な日課を通して、利用者が自主的に形成した習慣も大切に、本人の希望に沿ったその人らしい生活継続の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査時に生活歴や暮らし方、生活環境を把握している。入居後も面会時に再度家族・本人に確認を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録、経過観察記録、水分チェック表、業務日誌等から現状の把握に努めている。月1回のケアカンファレンスにて出来る事等を全スタッフで確認し日常生活に活用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回ケアカンファレンスにて本人・家族の意向・要望を参考に全スタッフで介護計画を作成し、同意のもと実施している。変更時、実施状況は随時報告を行っている。必要時に応じて主治医、医療連携の看護師等にも意見交換を行っている。 (外部評価) 利用者及び家族の意向や、職員が感じた利用者の生活課題等について、詳細な経過観察記録等と共に毎月のケアカンファレンスで検討し、計画策定に活かしている。勉強会でケース検討を行い、気づきを促して創意工夫の力量を磨き、質の高いサービス提供に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録物については十分行っているが、記録の時間がなかなか十分に記録が出来ていない。情報の共有に関しては申し送りノートを活用し、ケアカンファレンス等にて介護計画の見直し等は行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 事前に話し合いを持ち、要望があれば前向きに検討している。現在、療養マッサージを活用されている。医療に関しては、毎朝診療所に連絡し入居者の状況を報告している。また、週1回医療連携の看護師が訪問し体調管理を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 保育園、消防署、ボランティアの行事への参加等地域資源を少しずつ活用はしているが、まだまだ不十分である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ○○病院、◇◇歯科、△△診療所等との協力体制を取 り必要に応じて受診できるような支援を行っている。	
			(外部評価) 法人代表が医療機関を経営しており、利用者及び家族 の医療面への信頼度は高い。週2回の往診があるほ か、留意点等の確認もあるため、医療機関の受診は限 られた時間をやりくりして主に職員が対応している。 状態の把握は、日々の確認や週一回の看護師出勤時、 毎月のケアカンファレンス等で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎朝の診療所への状態の報告や、医療連携の看護師に 随時報告・相談を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は当事業所より情報提供書を作成し、退院時は 診療提供書を頂き共に情報を共有し介護についても継 続して支援出来るよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時にも重度化・終末期について説明している。主 治医・医療連携の看護師と協議を行い事業所での可能 な対応を家族に説明している。また、カンファレンス にてスタッフ全員の意識統一を図っている。	
			(外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」により、終末期の 体制を入居時から説明している。終末期が近づいた際 は、ホームでの対応に関して医療面での限界を含めて 主治医や看護師を交えて話し合い、家族と共に検討し ながら個別に対応している。また、実践事例を基に勉 強会等で振り返り、職員間で共有するよう努めてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時・事故発生時には係りつけの診療所に連絡し早期に対応している。また、月1回医療連携の看護師の参加のもと対応の仕方等を聞ける機会をつくっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎年2回避難訓練を行い、日勤帯・夜間帯を想定して行っている。また、全員が消火器を使えるよう指導も受けている。 (外部評価) 地域とホームの現状と役割・機能を確認した上で、消防署立ち合いによる定期的な防災訓練の実施、地域の防災訓練への参加、自衛消防団等への協力要請、職員に対する救命救急研修の徹底等に取り組んでいる。水・食料等の備蓄までは行っていない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個別の対応を行い馴れ合いのもと仲良くコミュニケーションが取れている。あくまでも人生の先輩という気持ちを常に持ち人格を尊重しプライバシーを損ねないよう配慮している。 (外部評価) 人生の先輩である利用者の尊厳を保持することを念頭におき、声かけや生活環境改善に留意するよう努めている。これにより利用者が意欲的・自発的に行動し、洗濯や台拭き・食器片付け等、自主的に生活習慣を形成していく原動力となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃のコミュニケーションからも本人の希望・願望を聞き取り申し送りノートに記載し他のスタッフに伝えたりケアカンファレンスにて検討したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の希望に添えられるように支援しているが、スタッフに余裕がないときは本人に説明し理解をいただくように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入居者が希望される時は、出張美容を利用している。また、外出時は化粧を行ったり身だしなみについても一緒に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者の好き嫌いを聞き、なるべく食事が楽しくなるよう別のものを代用し対応している。また、スタッフも一緒に食事を行うよう取り組んでいる。 (外部評価) 自主性を重んじながら、台拭き、配膳・下膳、畑の作物の収穫、下ごしらえ等、利用者の参加する場面をさまざまな形で設けている。食材は配達を利用して時間を活用することに努め、職員も食事を共にして、和やかな雰囲気を楽しんでいる。嗜好調査、アレルギーや糖尿病の利用者への対応等、細かな配慮にも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量は全員毎日チェックし記録に残している。食事量が減ったり水分が取れていない場合は早急に医療連携の看護師、主治医に連絡するよう取り組んでいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎日食後に声掛けを行い、口腔清潔が出来ない方は介助している。週1回義歯洗浄を行っている。観察を十分に行い異変がある場合は家族と相談のもと歯科受診を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) だんだんトイレを使用できる利用者が減ってきているが、残存能力の維持の為、P-トイレでの排泄を進めたりと個別に対処している。ケアプランに取り上げ取り組んだり、オムツ係りを作り使用量を減らせるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) やむを得ない場合を除き、極力おむつを使用せず、排泄パターンを把握し、トイレ誘導やポータブルトイレの活用により、プライバシーに配慮しながら排泄の自立に向けた支援を心がけている。夜間も随時誘導や見守り等をしている。詳細な記録とカンファレンス等により、状況把握の徹底と対応の統一に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分チェック表を取り入れ、1日の水分量に気を付けている。また、献立についても野菜を多く取り入れ便秘予防に取り組み、医療連携の看護師・主治医と相談しながら服薬についても常に検討している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本、毎日入浴できるよう配慮している。毎朝バイタルチェックを行い体調管理のもと本人に希望を聞いている。四肢が不自由な方でも一般欲にて出来る限り対応している。	
			(外部評価) 利用者の意向を尊重し、極力希望に添えるようにしながら楽しんで入浴してもらえるよう努めている。また、重度化して介護度が高い方についても、自立支援を念頭に、職員が協力して工夫しながら清潔保持と身体機能の維持を図るためのケアに取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は21時となっているが、入居者の意見を尊重している。なかなか眠れない入居者には暖かい飲物を提供したり、コミュニケーションを十分に取不安等を取り除くよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬がないよう一人一人1回分ずつの袋に薬を入れ手渡しにて服薬を行っている。薬の用途・副作用についてはファイルに閉じ直ぐに確認できるよう配慮している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活、洗濯、料理、散歩、お茶会、外出等を取り入れ気分転換を図っている。また、家族から生活歴を聞き生きがいになるような事を見つけれるよう日々努力している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出支援は行っているがスタッフ中心であり、希望に添えていないところがある。入居者の身体状況も悪化し外出先も限定している。	
			(外部評価) ぶどう狩りや地域の行事等への外出だけでなく、利用者の希望や自主性を尊重しながら、「利用者にとっての地域」の視点で、畑作業や洗濯物干し・取込み等、日常的に自由な外出の機会や地域との交流を大切にしている。	利用者が地域の中で一住民としていきいきと暮らせるよう、気軽に外出でき、地域の方や利用者・家族が直接ふれ合い憩える場として、屋外のテラスの有効活用について検討することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には事業所にて管理しているが、一部の入居者については家族の了承のもと自分で管理されている方もおられる。今のところお金に関しての問題は起こっていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ケアプランに取り入れ年賀状等の計画を立て実施したがなかなか本人の拒否が見られ実現できなかった。電話支援については希望者は家族に了承を頂き実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) フロアには季節を感じる事が出来るよう写真や折り紙での作品等を飾っている。また、カーテン・窓を開閉し外の景色や空気を五感で感じる事が出来るよう配慮している。室温・テレビの音量等も配慮し居心地のよい空間作りに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 建物が有する生活支援機能や設計コンセプトを利用者及び家族にも説明し、快適な暮らしに向けて家族と共に考えるよう配慮している。季節感ある装飾、行事や日常生活の写真等の掲示、利用者と職員の共同作品の展示等、落ち着いた雰囲気の中で利用者自身が生活できるよう努めている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テレビを見たい方はソファにてゆっくり鑑賞され、会話をしたい方はフロアにて過ごされている。日課に縛られずゆっくり過ごされる時間をつくっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族の協力のもと馴染みの物を部屋に持ち込まれている方もおられるが当施設のものしかない方もおられる。働きかけは行っているがなかなか実現できていない。</p> <p>(外部評価) 利用者及び家族と相談して馴染みの品を自由に持ち込んでもらい、思い思いの飾りつけをしたり、居室内を自由に配置変えできるようにしている。独居の方には職員が同行して自宅を訪問し、本人及び家族の了承を得て馴染みの品を居室に運ぶ等、個人が培ってきた文化や習慣を生活の中で大切にしていこう心がけている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 麻痺のある方のベッドの位置、トイレに近い方はトイレに近い部屋にする等考慮している。転倒の恐れがある場合は危険物は廃上し安全な環境作りを常に検討している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600019
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム 慶雲
所在地	喜多郡内子町大瀬中央5652番3 (電話)0893-47-0077
自己評価作成日	平成21年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・散歩コースは自然が豊かで季節感を感じられ好評です。
 ・入居者、職員毎日仲良く生活しています。
 ・利用者とスタッフが、気持ちの良い挨拶で1日をスタートしています。
 ・建物では、見晴らしの良いテラスが自慢で利用者の皆さんにも気持ち良く散歩が出来ると好評です。
 ・毎朝、6時30分からの体操にはほぼ全員参加され健康な体作りに励んでいます。
 ・地域行事(道づくり、運動会など)には積極的に参加し、地域の方から参加の呼びかけをして頂き今では頼りにされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立当初から地域と共に歩む姿勢を大切にしており、地域からの好意的・積極的な働きかけもある。開設から3年目を経過した現在、さまざまな形で地域に溶け込んでおり、運営推進会議等を通して地域とホームが相互に連携できることについて共に考えながら、安心できる暮らしの実現と街づくりへの貢献という両面の充実を図る努力をしている。職員の向上心や意欲は高く、時間的にも人員的にも限られた中で、日々の支援に加え、通院介助、外出支援、地域との交流など利用者及び家族の希望やニーズに応える努力をしながら、勉強会やカンファレンスを通してサービスの質向上と業務改善に励んでいる。また、職員同士が聞く姿勢や言い易い雰囲気大切にしており、利用者の尊厳保持と自立支援に向けた連携や意識統一を図る努力を続けている。今後、より一層の地域交流を通して地域の拠点となっていくことが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム慶雲

(ユニット名) 西棟

記入者(管理者)
氏名 松田幸博・山上真弘

評価完了日 平成 21 年 9 月 28 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 会社全体での理念が3つあり、各ユニットのフロアに掲示している。又、西棟フロアの理念もあり、職員で話し合い少しずつ取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 各ユニットで「ホームにとっての地域」について共に考え、法人理念を基本にしながら、わかり易い文言で表現し、共有に努めている。開設以来、ホームの存在自体を「街づくり」の一環と受けとめ、地域と共に歩み、職員だけでなく利用者也理念を共有して日々の暮らしの中で体感できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 清掃活動の道作り、地域の球技大会など地域の方から呼びかけて頂き積極的に参加している。学生ボランティア等も受け入れており、7月に体験学習で地元の中学生在が来られ入居者と交流出来た。又、近所に数件家が出来た為その方とも交流をしていきたい。</p> <p>(外部評価) 保育園との交流、運動会その他季節行事への参加以外にも、地域の方から門松の提供があったり、自衛消防団との連携を図る等、利用者と職員が共に地域との交流を保てるよう心がけている。また、ホーム近隣に住む職員もおり、防災面等でその利点を活かせるように努めている。</p>	眺望の素晴らしい屋外テラスが設置されており、さまざまな行事等で今後有効活用していく意向があるとのことなので、地域の拠点として位置づけ、利用者及び家族や職員、更には地域の方同士が直接ふれ合い憩える場として活用することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、地域の方へ参加して頂きこちらの実施状況を聞き少しずつ浸透しつつあると思う。内子町内のグループホームが開催している連絡協議会にて地域住民参加の研修会等も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回会議を開催し意見交換している。参加者の意見を参考にし、サービス向上に活かせるよう少しずつ取り組んでいる。特定のスタッフだけでなく交替で会議に出席することにより大切さを体験し意見交換することにより理解を深めている。	
			(外部評価) 会議には利用者の参加も可能で、家族や職員の参加も促している。現況報告や外部評価公表に加え、感染症、認知症、町の現状等、地域と密接に関係するテーマでの勉強会も行い、広く意見を聴取するように努めている。会議で出された課題への対応を、家族や地域関係者と共に考え、運営に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 月1回のグループホーム連絡協議会、運営推進会議や電話等により意見交換を行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議への行政の参加を促し、地域に関係のあるテーマについての勉強会を通して、地域密着のあり方から、利用のあり方やサービス提供内容等の細かな点についても率直な意見交換を行い、必要に応じて助言を受けて利用者への支援の質を高めるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 西棟ではやむを得ず家族の許可を得てベッド柵使用、ミトン使用を行っている。毎月1回ケアカンファレンスを開催し防止に向けて話し合っている。	
			(外部評価) 防犯のため夜間は玄関を施錠しているが、日中は施錠することはほとんどない。職員のさりげない見守りのもと、仲良しの方同士で散歩したり、洗濯物干しや取り入れ等を自身の日課としている方が屋外テラスに自由に出入りできるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法についての研修に多くの職員が参加し学びたいと考えているがまだ研修等に行けていない。内容はおおまかに分かっているが不十分な点があり勉強が必要。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在事業所内で権利擁護を利用されている利用者がおられる。勉強会を開き理解を深めている。成年後見制度などすべては理解出来ていない為再度勉強会の実施、研修に参加していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時・契約変更時・解約時の際家族の方が分かりやすいように説明しその度質問に答えながら行っている。重要事項説明書に沿って説明してる。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約書に苦情を受け付ける場所を明示している。事業所内に意見箱を設置しており来訪者が自由に書いて入れられるようにしている。又、3ヶ月に1度手紙を送り意見・要望を確認している。苦情が出た場合は職員が集まり話し合いを行っている。 (外部評価) 運営推進会議を居間で開催し、随時利用者の参加も可能で、家族や職員の参加も促している。年一回は家族会を開催し、遠方の家族へも手紙等で連絡するなど、極力広く意見が聞けるよう努めている。出された意見への対応は、職員間だけでなく運営推進会議の参加者にも意見を聞きながら運営に活かすように努めている。	家族の参加を促してきたことが実を結び、家族自身が積極的にホームの運営に関心を持ち、家族会の開催に至っている。将来的には、家族自身による自主的運営が実現し、利用者及び家族とホーム、家族同士がより一層深い絆で結ばれたホームとなっていくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は月に1回の業務カンファレンスで全体で話し合った意見を聞きその度事業所が良くなるように取り組んでいる。又、それ以外でも随時、管理者は職員の意見を聞いている。</p> <p>(外部評価) 管理者及びホーム長は傾聴姿勢を大切にし、何時でも意見が言える雰囲気づくりに努めている。月1回開催する業務カンファレンス等で出された意見は、食卓の高さへの配慮等、直に検討し運営に反映させている。また決定事項の伝達も、記録や掲示で伝え合う意識を職員全員で持つよう努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は多忙な為訪問回数が少なくしつかり状況把握をしているか分からない。部長が定期的に事業所に訪問し管理者・職員に意見を聞いている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 年に2回各施設合同の勉強会を実施している。2ヶ月に1回ホーム長会議を実施し意見交換をして各施設が質の向上に努めている。又、3ヶ月に1回施設で勉強会も実施している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 月に1回、町内のグループホーム管理者が集まり、情報交換をしている。その内容を業務カンファレンスで報告している。合同運動会、勉強会と合同で行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前調査やホーム内の見学時に可能な限り本人の意向を聞いている。入居後もケアカンファレンスにて信頼関係が築けるよう全スタッフで話し合っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査やホーム内の見学時に可能な限り家族の意向を聞いている。入居後も生活状況を報告し家族と意見交換を随時行っている。6月に開催した家族会の時にも再度話し合いを行った。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、グループホームの入居に適しているか事前調査を行う。又、利用困難な場合は担当のケアマネジャーに他のサービスを利用しているかの確認、引き継ぎ受けられるかも検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方と一緒に食事作りをする、洗濯物たたみをするなど生活において協力しあい関係を深めていっている。利用者の方の意見が参考になる事も多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、家族に利用者の生活状況やケアプランを説明したり行事参加の呼びかけを行っているが、行事はあまり家族の参加が少ない。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある床屋が訪問し散髪している。電話や手紙のやりとりも行っている。又、昔の話などを本人より聞いたりしてコミュニケーションも図っている。 (外部評価) 利用者の生活歴に全職員が関心を持ち、本人及び家族の了承を得て自宅を訪問する等により、馴染みの環境を日々の生活の中で実感できるよう努めている。入居後も馴染みの関係の構築・維持を図り、居室変更等の際は極力配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士が関わりを持てるよう話の間に入ったり同じ作業をして頂いたりしている。コミュニケーションの困難な利用者は職員が間に入りフォローしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院により退去となった入居者の場合はその後、家族とは連絡をとり関係を断ち切らないようにしている。関係を保った為、再度利用することも出来た例もある。入院の場合は面会、コミュニケーションを図り気づいた事があれば家族に報告するようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1人ひとり希望を聞き可能な限りその人らしい生活を送って頂いているが、自分の意思を訴えない方もいるなどこちらの一連の流れで過ごされている方が多くあまり出来ていない。 (外部評価) 何気ない日常会話や行動観察、家族との情報交換に加え、毎月のケア及び業務カンファレンス等さまざまな機会を通して意向の把握に努めている。また、洗濯や台拭き等個人的な日課を通して、利用者が自主的に形成した習慣も大切に、本人の希望に沿ったその人らしい生活継続の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査の際に本人と家族から話しを聞き記録に残し、分からない点は面会時に再度家族に聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 事前調査で聞いた内容と分からなかった点を再度家族に確認し記録に残している。変わった点があった場合も記録に残しスタッフに申し送っている。又、入居者に色々な事をやって頂きどこまでの事が出来てどこからが出来ないか確認し、少しでも出来る事が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人と家族の方から意見を聞き、ケアプランを作成している。月に1回ケアカンファレンスを開き西棟スタッフ全員の意見も聞き作成している。又、必要時家族や主治医・医療連携の看護師にも意見を聞いている。 (外部評価) 利用者及び家族の意向や、職員が感じた利用者の生活課題等について、詳細な経過観察記録等と共に毎月のケアカンファレンスで検討し、計画策定に活かしている。勉強会でケース検討を行い、気づきを促して創意工夫の力量を磨き、質の高いサービス提供に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の介護記録を前回と比べて要点を押さえ省略し、分かりやすいように記入している。個別記録は各担当者が責任を持って作成し、月に1回のケアカンファレンスの内容、ケアプランを綴じている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝、診療所から電話がかかりその都度入居者1人1人の状態を説明している。急変時は主治医に連絡後、病院受診を行っている。又、週1回医療連携の看護師が来られ1人ひとり入居者の状態を確認されている。家族にもその都度電話連絡している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の保育園児や大正琴のボランティアの方が来られ入居者の方がとても喜ばれていた。今年の2月、9月に消防署員を交えた非難訓練・8月に普通救命講習を実施した。7月にも地元の中学生の職場体験で当施設にて実習をされた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居契約の際、家族の方にかかりつけ医の説明をしつ かりし同意を得ている。適切な医療を受けられるよう 受診・往診を支援している。 (外部評価) 法人代表が医療機関を経営しており、利用者及び家族 の医療面への信頼度は高い。週2回の往診があるほ か、留意点等の確認もあるため、医療機関の受診は限 られた時間をやりくりして主に職員が対応している。 状態の把握は、日々の確認や週一回の看護師出勤時、 毎月のケアカンファレンス等で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎朝、診療所から電話がかかり1日の状態を説明して いる。週に1回医療連携の看護師も訪問しその都度入 居者の状態・対応を聞いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した時は主治医と相談し情報交換している。主治 医のほうから退院予定の説明もありより良い関係作り が出来ていると思う。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居契約時に終末期医療についての資料を家族に渡し 説明し、事業所で出来る限り行うようにしている。家 族からの不安点などは病院に連絡すると主治医と話し 悩み軽減に努めている。 (外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」により、終末期の 体制を入居時から説明している。終末期が近づいた際 は、ホームでの対応に関して医療面での限界を含めて 主治医や看護師を交えて話し合い、家族と共に検討し ながら個別に対応している。また、実践事例を基に勉 強会等で振り返り、職員間で共有するよう努めてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年1回消防署主催の普通救命講習を全職員が受講している。緊急連絡網を作成しており必要時は電話連絡をしている。又、週に1回の医療連携の看護師の方に不安な点など質問出来るようになっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の職員により避難訓練を年に2回実施しているが、まだ実際に遭遇しておらず冷静に対応出来るか不安である。地域の方と一緒に連れていけない事が課題であり次回は地域住民を交えた訓練を行いたい。 (外部評価) 地域とホームの現状と役割・機能を確認した上で、消防署立ち合いによる定期的な防災訓練の実施、地域の防災訓練への参加、自衛消防団等への協力要請、職員に対する救命救急研修の徹底等に取り組んでいる。水・食料等の備蓄までは行っていない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の声かけにはプライバシーを損ねないように注意している。又、職員の入社時に守秘義務の同意書に契約している。 (外部評価) 人生の先輩である利用者の尊厳を保持することを念頭におき、声かけや生活環境改善に留意するよう努めている。これにより利用者が意欲的・自発的に行動し、洗濯や台拭き・食器片付け等、自主的に生活習慣を形成していく原動力となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り本人の希望を聞いているが、入居者全員の希望は現在聞かれていない状態である。自己決定出来るようにも努めているがまだまだ出来ない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 以前に比べゆっくり過ごす事が出来つつあるが、業務に追われ入居者1人ひとりのペースでは過ごせていない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの理髪店を希望されている方は施設に訪問されその一時をを楽しまれている。又、出張理容、美容サービスが出来るよう支援している。外出等では化粧を行う方もおられるので支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一部の入居者がもやし等の根っこ等を手伝っているがほとんど職員が食事を作っている。下膳が出来る方には自分で行って頂いている。スタッフは入居者の食事が終わってから別で食事を摂っている。	
			(外部評価) 自主性を重んじながら、台拭き、配膳・下膳、畑の作物の収穫、下ごしらえ等、利用者の参加する場面をさまざまな形で設けている。食材は配達を利用して時間を活用することに努め、職員も食事を共にして、和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。嗜好調査、アレルギーや糖尿病の利用者への対応等、細かな配慮にも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量は全員毎日チェックし記録に残している。食事量はほぼ全量摂取であり、水分は1日1000cc程度を目標にし、呼びかけて摂取して頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアのチェック実施。1人で出来る方は自分で行ってもらい困難な方は職員が介助し清潔保持に努めている。入れ歯のある方は毎週火曜日にポリデントを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレ誘導が必要な方には定期的に声かけし、トイレにて排泄される。尿失敗が多い方の場合は1時間おきに区切られた排泄チェック表を活用しトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) やむを得ない場合を除き、極力おむつを使用せず、排泄パターンを把握し、トイレ誘導やポータブルトイレの活用により、プライバシーに配慮しながら排泄の自立に向けた支援を心がけている。夜間も随時誘導や見守り等を行っている。詳細な記録とカンファレンス等により、状況把握の徹底と対応の統一に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘のある方には水分をたくさん摂取して頂いたり運動チェック表を作って目標を設定し、積極的に取り組んで頂いている。又、便秘時は主治医の指示のもと薬を処方し、ケアプランにも取りいれている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴日としているが業務の都合で本人が望まれる時間、日に入浴出来ない時がある。入浴チェック表で確認し、最低週2回利用者1人ひとりが入浴出来るよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 利用者の意向を尊重し、極力希望に添えるようにしながら楽しんで入浴してもらえるよう努めている。また、重度化して介護度が高い方についても、自立支援を念頭に、職員が協力して工夫しながら清潔保持と身体機能の維持を図るためのケアに取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は21時と設定しているが、一人ひとりの生活習慣に合わせて早く寝る方はそれまでに入眠されている。不眠時は話し相手になったりするなど安心して眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の表を作成し、作用・副作用、用量を書き分かりやすいようにしている。前回の時に比べ職員1人ひとりが把握出来つつあると思う。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一部の利用者の方しか役割はないが、1人ひとりとその日をゆっくり過ごして頂くように取り組んでいる。しかし、レクリエーション不参加などで1日ソファに座っている方もいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩、ホームでの外出行事（買い物など）には1人ひとり参加の呼びかけを行い実施している。個別での外出支援は難しく、近くに家族がいる場合は声かけし協力して頂いた時もあった。 (外部評価) ぶどう狩りや地域の行事等への外出だけでなく、利用者の希望や自主性を尊重しながら、「利用者にとっての地域」の視点で、畑作業や洗濯物干し・取込み等、日常的に自由な外出の機会や地域との交流を大切にしている。	利用者が地域の中で一住民としていきいきと暮らせるよう、気軽に外出でき、地域の方や利用者・家族が直接ふれ合い憩える場として、屋外のテラスの有効活用について検討することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には事業所の金庫の中にお金を保管しているが、本人希望で自分で管理したい方は少ない額を家族の了承のもと本人が管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話希望時には電話をかけ家族と直接話して頂いている。手紙を書かれる方にはポストに投函するなど支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアには季節の写真、季節に合った折り紙での作品の掲示、季節感が感じられる花を飾るなどそれを見て利用者が喜ばれている。温度、テレビの音量等に注意し、居心地良く過ごせるよう支援している。 (外部評価) 建物が有する生活支援機能や設計コンセプトを利用者及び家族にも説明し、快適な暮らしに向けて家族と共に考えるよう配慮している。季節感ある装飾、行事や日常生活の写真等の掲示、利用者と職員の共同作品の展示等、落ち着いた雰囲気の中で利用者自身が生活できるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアにソファがあり、一部の入居者は特定の場所しか座らない方もいるがその時はとても落ち着かれ、他の入居者と会話をしたりテレビを見たりされている。自分の好きな時に居室で過ごされている時間もある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ラジオ・馴染みのある家具などを持って来て頂き利用者が安心出来るよう家族に呼びかけている。又、誕生日プレゼントなどをダンスの上に置きそれを見て利用者が喜ばれる時もあった。 (外部評価) 利用者及び家族と相談して馴染みの品を自由に持ち込んでもらい、思い思いの飾りつけをしたり、居室内を自由に配置変えられるようにしている。独居の方には職員が同行して自宅を訪問し、本人及び家族の了承を得て馴染みの品を居室に運ぶ等、個人が培ってきた文化や習慣を生活の中で大切にしていこう心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 1つ1つの空間も広く廊下・トイレ・浴室等手すりを設置するなど安全対策をしている。又、自分の居室がすぐに分かるよう戸に写真を貼るなど工夫している。	